

# 「元気いっぱい・笑顔いっぱい」



特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

## 「カリスマティックアダルト」

アメリカでは、「あの先生は私のことを理解してくれている」「将来はあの先生のようにになりたい」と言う大人を「カリスマティックアダルト」と呼んでいます。子どもが「カリスマティックアダルト」（よき理解者で、心の支えになる大人）を見付けると、自己コントロールがうまくいくと言われています。



### 1 カリスマティックアダルトに必要な条件

- 子どもの変化に敏感である。
- 子どもが何をほめてほしいか、評価してほしいか、認めてほしいかを知っている。
- 子どもの興味・関心のあることや話題を知っている。
- 子どもに得意なことやできることを頼んで、「助かった」「ありがとう」「あなたのおかげで」「あなたに頼んでよかった」と感謝している。
- 子どもの心の一番奥（柔らかい部分）の辛さや悲しみをさりげなく汲み取れる。
- 子どもが困ったときに寄り添う支援をする。
- 目配り・気配り・心配りはするが、主導権は渡さない。

適切な例えではないが、以前、運動会の練習に参加せず、教室の鍵をかけて閉じこもった子どもがいた。私は鍵のかかかっていない廊下側の上の窓からよじ登り教室に入ったとき、その子どもの驚いた顔を今でも忘れない。その日から、二人の心の距離が縮まった。教育は力で押さえ付けるのではなく、子どもを思う気持ちが必要である。



### 2 えこひいきと誤解されない個別の関わり方

- 教室移動する合間に、そっと個別に声を掛ける。
- さりげなく非言語メッセージを送る。（アイコンタクト、笑顔、サイン、頷き等）
- 子どもの目をしっかり見て、微笑むタイミングを見計らう。
- テストやノートに、いつも見ているというメッセージを添える。  
例：「誰よりも早く準備ができたね」「廊下のゴミを拾ってくれたね」
- 朝、誰よりも早く教室に入り、登校した子どもに「おはようございます」と声を掛ける。  
結果的に、全ての子どもに声を掛けることができる。



必要なのは、どの子にもその子に合った特別扱いをしていることを子どもたちに実感してもらうクラス風土づくりである。そうすれば、個別の配慮が必要な子どもに特別な対応をしているときも、その子に必要な対応としてみんなが認めていけるクラスとなる。



## とれたて直送便



### 教師は、「何のプロ」？

プロとは、専門的な知識・技能を身に付けた人にしかうまく務まらない職業に使われる言葉です。医師は「患者の病気を治す治療のプロ」、看護師は「病気を治したいと思う患者の心を支えるケアのプロ」、それでは、教師は「何のプロ」でしょうか。

答えは一つではありません。ぜひ、「 」に入れた言葉を実現できるプロを目指しましょう。